



新年ご挨拶

社団法人 青森県建設業協会
会長 杉山 ^{はる} ^{みき} 東 幹

震災復旧の槌音が響く中、新春を迎えられた皆様方にご挨拶を申し上げます。

日頃より、社団法人青森県建設業協会には深いご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年、我が国を襲った未曾有の大震災および集中豪雨等の自然災害は、堅牢な社会資本の整備によるライフラインの維持が緊急事態においていかに重要な意味を持つかを示しました。

私ども建設企業に対しても、緊急時の応急活動・災害復旧業務にあたり果たすべき機能と役割について、多くの検討課題を与えたところです。私どもはこのような課題をふまえ、今後とも地域の防災力向上のための活動を推進して参る所存です。

しかしながら我が国の経済は、雇用不安と株価低迷が続き円高が固定化する中、深刻なデフレーションが続いており、地方経済の長期に亘る苦境には一向に改善の兆しが見られません。

地方自治体も、財源の確保と医療・教育・交通・産業振興などの各分野における課題を抱えております。

こうした状況の中、建設業界は今後とも厳しい競争と淘汰に置かれるものと予想されており、工事量の大幅減、低価格受注の頻発による採算の著しい低下、資金繰りの逼迫等の深刻な問題が企業経営に大きな影響を与えております。

特に、業界の切実な問題である採算を度外視した低価格受注の頻発は、工事品質、雇用と生活、安全管理、環境の各分野で

破壊的な影響を地域社会に及ぼすと言われております。

対応によっては、歴史のある「正直な」企業が退場を余儀なくされ、産業として成り立たなくなる可能性さえ指摘されており、地域の防災機能・除雪作業等の生活環境の維持に及ぼす影響が深刻に危惧されております。

一方で、高齢化や環境問題など社会構造が大きく変化していく中で、快適で潤いのある住民生活の創出に向けた対応が求められております。私どもは、社会資本の整備により生活環境の充実に貢献していくことが、建設産業の責務と考えております。

また、従来の公共事業の在り方に変革を迫る諸施策が実施され、建設業界は大きな節目を迎えております。

私ども青森県建設業協会は「活力と魅力にあふれる産業」を目指して組織の強化を進め、会員企業の技術向上と経営基盤安定化を通じて体質改善を図ることにより、地域社会の発展と生活環境の維持に寄与して参る所存でございます。

また、「公共事業イコール無駄な投資」というネガティブキャンペーンに対しては、地域格差是正の観点から率直な主張を行って参りたいと考えております。

関係機関の皆様には、今まで以上のご高配を賜りますようお願い申し上げます、併せて皆様のご健勝とご隆盛を心よりご祈念して、新春のご挨拶とさせていただきます。